

海外展開の「リスク」をも共有

産廃処理業支援でセミナー

全産廃連

全国産業廃棄物連合会は先月20日、都内のプラザエフで「産業廃棄物処理業の海外展開に向けて

基礎知識とその具体事例」を開催した。国内市場の縮小が確実視されるなか、海外に活路を見出す企業も多

く、海外展開の現状に注目が集まっている。今回のセミナーでは、環境省の多年にわたる支援事業のフォローアップ結果などを反映し、そのチャ



冒頭、あいさつを行った連合会の海外展開担当理事であるアースサポート社長の尾崎俊也氏は、「海外展開への関心は昨今の事業者の間で高いが、知識・情報がなく、もどかしい思いをしている」としながら、「連合会としても廃棄物団体連合会の国際委員会に加盟し、海外展開を支援する方向へ歩を強めている。そうした中で、今日のセミナーでは、海外展開に関する基礎知識・基礎情報を提供するものであり、理解を深めてもらえれば」と激励した（写真）。

セミナーでは講師を環境省の富坂隆史氏、独立国際協力機構の中川岳春氏、事例発表として東亜オイル興業の杉本浩生氏、萬世リサイクルシステムズの小西武史氏が担当した。